

## 【テーマ】

○だんご虫の体のつくりを観察し、観察画を描く。

## 【テーマの設定理由】

○だんご虫の体のつくりについて知ったことや観察して気付いたことを自由に描く。

## 【活動スケジュール】

○だんご虫の体のつくりを電子黒板で観察しながら知ったことや気付いたことを振り返った後、観察画を描く。

## 【活動のために用意した素材や道具、環境の設定】

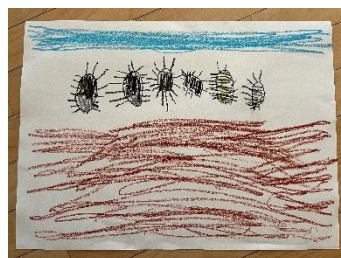
電子黒板(ECMO カメラ含む)、ペットボトルキャップ(だんご虫を1匹ずついれる)、椅子、机、クレヨン

## 【活動内容】

○だんご虫を電子黒板で観察したり、実物を見たりして描く

## 【子どもの様子】

前々回にだんご虫に触れた感触をつるつるやもぞもぞなどの言葉で表しながら自然に親しむ姿から始まった今回のテーマだったが、前回詳しく観察する中で発見したことを伝えあったり、不思議に思ったことを保育士と一緒に調べたりしたことで、だんご虫に対する興味や関心が深まっている。前回の活動後だんご虫を飼育し、人參や段ボールを餌として用意して餌をどのくらい食べたか、うんちはするのか、水は本当におしりから飲むのかなど調べる中で知ったことを実際に見てみたいという気持ちを強く感じていた。戸外遊びをしても、だんご虫を捕まえるだけでなく、「これは女の子だ。」「体が白っぽいから脱皮した後だ。」と子ども同士でやり取りする姿も見られていた。今日の活動をするにあたり、電子黒板でだんご虫を映し出しながら子ども達と一緒に前回の振り返りをしてから観察画に取り組んだ。また、電子黒板に映し出されただんご虫以外に、一人一匹実際に見て観察できるように用意した。実物を見ることで「丸まっているところ描きたい。」「あ、これ男の子かもしれない。」とだんご虫の個体差や色々な形態に着目して描いたり、電子黒板を見て「足は14本だから…」「足の周りには毛があるんだって!」と細部まで描こうとしたりそれぞれの思いがこもった作品になった。日常の中でだんご虫が子どもたちにとって身近な昆虫であるからこそ、どこに生息しているのかもわかっていて、だんご虫だけでなく周りの環境まで描き、想像力を膨らましていた。



## 【振り返り】

子ども達の自由な発想で描くことのできるように、観察画を描く前にあえてじっくり観察する時間は設けなかった。電子カメラで映し出されただんご虫を見せながら今までの活動で気付いたことや調べたことを改めて子どもたちと一緒に確認してすぐに描き始めたが、振り返りの中で描く前に観察する時間をもっととっても良かったのではないかという意見があった。確かに今までの活動の中で何度もだんご虫を観察しているが、いつも子ども達の中に新しい発見や気付きがあったので、じっくり観察してから描いた絵はまた違ったものになっていたかもしれないと思った。今回の観察画には、子ども達が今までの活動で知っただんご虫の体のつくりや、日常の遊びの中で知っただんご虫がどこに住んでいるのかということが絵の中によく表れていて、一人ひとりが興味を持って観察していることがよくわかる絵になっていた。また、電子黒板に映し出すのみでなく、一匹ずつ実際に観察しながら描くことができるようにしたため、だんご虫の色々な形態(ひっくり返る、丸まるなど)を描いていた。描いている間も、足や胴体に入っている線の数を数えたり、「あ、青色のだんご虫描くの忘れてた!」など子ども達の声が多く聞こえてきた。今まで観察する中で知ったことが子ども達の中にしっかり記憶されていることに気付いた。みんなが興味のあることをみんなで楽しむ活動を通して、子ども達の興味関心が深まることはもちろん、知りたいという気持ちが大きくなっていくことを強く感じた。保育士が経験させてあげたいものだけでなく、子ども達が今好きなことや楽しいと思っていることを追求できる活動に出会わせてあげるためにはどうしたらよいか、出会った瞬間を見逃さずに掘り下げていくことのできる環境を整えていくことの重要性に改めて気付き、日々の保育に活かしていこうと思った。

